

目次

はじめに……………(竹本真希子)…………… i

第I部

核兵器禁止条約の展望と課題

第1章	核兵器禁止条約から見た北朝鮮の 核・ミサイル問題……………(孫賢鎮)…………… 3
第2章	国家責任法等から見た核兵器禁止条約……………(福井康人)…………… 27
第3章	核兵器禁止条約の展望と平和首長会議の提案……………(小溝泰義)…………… 51
第4章	核兵器禁止条約と日本の役割……………(水本和実)…………… 81
第5章	核兵器の終わりの始まり(講演録)……………(ティム・ライト)…………… 109
第6章	「核廃絶への二つの道」を考える……………(遠藤誠治)…………… 129

第7章 日本の核のトリレンマ

——核廃絶、核抑止、核燃サイクル……………(鈴木達治郎)……………

151

第8章 核兵器禁止条約を獲得した世界で

——被爆地の新たな課題を考える……………(金崎 由美)……………

173

第Ⅱ部

「歴史としての戦後」を考える

第9章 「戦後日本史」の叙述をめぐって(講演録)……………(成田 龍一)……………

197

第10章 原爆被害者の対米意識と「核の普遍主義」……………(直野 章子)……………

227

第11章 戦後西ドイツの「戦争」認識

——近年の日本における議論を中心に……………(竹本真希子)……………

251

第12章 日本人は小野田元少尉をどう見たか

——フィリピンの残留日本兵をめぐる語り……………(永井 均)……………

273

第13章 「戦後の象徴」としての憲法9条

——戦後日本の「理念」と「現実」……………(河上 暁弘)…………… 301

執筆者一覧…………… 326

* 本書所収の各論は、執筆者個人の見解であり、広島平和研究所を代表するものではありません。